

2021年度 学校法人修道学園事業計画達成状況
 <広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

2022年3月31日現在

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった

主要項目	具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成度
I 学力の向上					
1 学力向上の取組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。	各学期末の教科会で共有し、定期試験の得点や模擬試験の結果との連関について検討し、次年度の実施計画を策定した。	教務部、学年会	通年	○
	②授業を大切にすため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。	生徒指導部とも連携し取り組みの普及を図った。	教務部、学年会	通年	○
	③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけ、それを生徒と共に実施する。	生徒は概ね集中して朝学習に取り組んでいる。読書啓発のイベントも企画したが、実施には至らなかった。	協創教育部、学年会	通年	△
	④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	1学期末に1回目、12月に2回目を行い、アンケートの結果に係る対応策を関係部署で協議し、改善策を共有した。	教務部、学年会	通年	○
2 探究型学力(主体的学び)を目指す授業づくりの促進	①「エミット学習」(描く・観る・問う)やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。	「エミット学習」を取り入れた授業づくりについては、ルーブリック研修を通して意識付けを行った。ICT活用については不定期に研修を企画した。	教務部 協創教育部	通年	○
	②探究的な学びを促進する発問の仕方や課題の出し方について研究し実践する。	教職員研修会で各教科での実践事例の報告を行い、検討・協議を行った。	教務部	通年	△
	③参加型授業の研究・実践を行う。	教科での授業観察や各学期末の教科会で実施方法及びその効果について共有を図ったが、全体の共有の機会が持てなかった。	教務部	通年	△
II 進路指導の強化					
1 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」の作成とそれに基づく取組みを充実させていく。	進路シラバスと進路資料集を5月末に完成させ、各クラスに配布した。また、クラッシーにて保護者にデータを配布した。進路指導部の行事が月曜LHRで、コロナ禍の影響で中止になることが多く十分に時間が取れなかった。今後は学期初めや学期末のLHRの時間を活用していきたい。	進路指導部 学年会	4月～11月	○
	②広島修道大学附属校推薦・総合型選抜・学校推薦型選抜対策案を企画・立案し、実施する。	高校3学年学年団と合同で夏休み中に面接学習会と面接模擬試験を開催し、面接対策をした。総合型選抜、学校推薦型選抜対策として進路と高3学年の教員が中心となり個別で入試対策をした。10月中旬に附属校推薦の被推薦者に対して、学部ごとの面接学習会を開催した。総合型選抜、学校推薦型選抜対策として進路と高3学年の教員が中心となり個別で入試対策をした。	進路指導部	4月～1月	○
	③進路希望に応じた効果的な補習体制を構築する。	夏休み補習を全学年で実施し、高校3年生に対しては河合塾の講師による特別補習を実施した。2学期放課後から高校全学年、中学3年生対象として実施した。冬期補習、春期補習を立案し募集した。協創スマート予備校実施の提案をし、来年度からは全レベルの生徒をカバーできる補習体制を確立する。	進路指導部	通年	○
	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	中学1・2・3学力推移、高1・2スタサポ、高1・2ベネッセ記述模試について結果を分析した。職員会議、教科主任会議で報告し教科指導に活かすことを依頼した。高1の文理選択、高2の進路実現につなげるように学年団とも協力をした。高3の進路指導について、ベネッセハイスクールオンラインを活用し、生徒に有益な情報を与えると共に信頼できるデータに基づいて進路指導をした。	進路指導部	通年	○

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成度
Ⅲ 自立(自律)心の育成					
1 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。	身だしなみに関しては、朝の登校指導を中心に積極的な声掛けを行い、風紀の徹底を図った。掃除は自発性を促すような声掛けにより主体的に取り組んだ生徒が増えた。挨拶は自らの生徒が増えた。授業時間・登校時間含めて遅刻者は減っている。 また、近隣住民アンケートでの教職員・生徒に対する意識調査の結果を元に、通学路の変更等の対応を行った。	生徒指導部 学年会	通年	○
	②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。	行事等で「AIM HIGH」Tシャツを着用、多くの場面で言及するなど、一体感・連帯感を創出した。「AIM HIGH」Tシャツの作成、購入なども生徒指導部へ移管した。	生徒指導部 学年会	通年	○
	③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	長期休暇前の学期末には全て講習会を実施できた。SNSによるトラブル・問題行動は依然として発生している(特別指導も何件か行った)。自制・自重できる環境づくりをさらに形作っていくつもりである。	生徒指導部	通年	○
2 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、生徒の自発性や能動性を高めることを目的とした協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。	生徒指導部主催の行事に関しては、全て生徒自治会主体で実施している。文化祭に関しては、企画・立案・計画・進行・運営すべてを自治会が中心に行った。体育祭は中止になったが、クラスマッチや協創コンテストも自治会中心に実施できた。危惧していた新自治会への引き継ぎもスムーズにいき、新生徒自治会が醸成され始めている。	生徒指導部	通年	○
	②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	SNSの更新頻度は日々上がってきている。特に2学期中頃より更新が増えたことも含めて閲覧数・閲覧伸び率が上昇している。これまでただの写真と簡単な文章(ブログ)のみだったが、3学期以降は動画編集にも取り組ませている。自治会の作った動画は好評で、閲覧数を上げる要因ともなっている。	生徒指導部	通年	○
	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	コロナ禍の厳しい社会情勢の中、国及び県より部活動の練習の制限・公式試合の延期や中止が続いている。国・県の要請を順守しつつ、限られた時間と場所で効果的に実施できた。	生徒指導部	通年	○
Ⅳ 協創教育の推進					
1 「4つの力」(探究型学力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①「4つの力の育成」を評価するための「協創ルーブリック」を作成する。また、これを踏まえた「教科別ルーブリック」を作成し、評価を試みる。	ルーブリック検討委員会を組織するとともに、月1回の研修もルーブリックをテーマにして行い、学校ルーブリック及び教科ルーブリックを作成した。2022年度は「協創ルーブリック」と「教科ルーブリック」を実施しながら整合性を図るため、その作業計画を策定した。	教務部 協創教育部	4～7月	○
2 「探究科」授業の充実	①地域に密着した身近な課題から生徒が4つの力を意識して解決策を模索し、思考の深化を図る授業に取り組む。	中学は体験を基本に置いたプログラムを実施した。 高1に「Locus」を導入し、地域の企業を訪問する機会を設けた。来年以降のように探究授業に位置づけていくのか、振り返りや仕掛けが必要である。 高2は新型コロナウイルスの影響で研修旅行の予定が立たなかったため、その都度の対応となった。 高3は修大コースで広島修道大学との連携プログラム、その他のコースは高校生ビジネスプラングランプリを行った。	協創教育部	通年	△
3 「GCP」(グローバル・コンピテン ス・プログラム)の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型の特色ある教育活動として、当面、英語科を中心としたGCPIに取り組む。	GCPを一年間実施した。内容的には良好であったが、校内に定着させ、深めていくには時間が必要であるため、年度末には全教員のGCPの見学を実施した。	協創教育部 英語科	通年	○

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成度
4 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。	対面での交流ができなかったが、オンラインでのプログラムを実施した。フィリピン提携校とのオンライン交流、PIAとのオンライン英会話セッション。広島市と大邱市とのオンラインイベントに参加。 対面ではISAのエンバワメントプログラム&イングリッシュキャンプを春休みに実施した。	協創教育部	通年	○
	②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。	協創教育部	通年	×
5 ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	Googleworkspaceやデジ案採点2、その他各種ICTの情報を発信したが、学校全体への広がりは見られていない。	協創教育部	通年	△

V 教育力の向上

1 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「バディ制度」を導入し、先輩教員から授業や校務などについて指導、助言する。	担当教員を任命し、指導助言を行った。中間報告と年度末のヒアリングを行い、次年度への改善に生かした。	教務部	通年	○
	②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。研修は、経験年数別、マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	前期はルーブリックに関する研修を行い、協創(学校)ルーブリック・教科ルーブリックを作成した。後半は作成したルーブリックの活用方法について研修を重ね、次年度での実施に向けての準備を行った。	教務部	通年	○
2 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	各教科の担当を決め、広島修道大学、広島大学、県立広島大学教授を助言者として事前授業観察など準備を行った。またルーブリック評価をもとにした授業案を作成し、公開研究授業を実施した。	教務部	11月	○
3 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	県立広島大学教授を外部評価者として招聘し、年2回の実施計画を立て、1学期末に1回目を行い、結果を会議で共有し、改善策を関係部署で検討するとともに、11月の公開研の教案検討を行った。	教務部	通年	○
4 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックを作成し、これに基づいて評価をする。	協創(学校)ルーブリックとともに教科別ルーブリックを作成し、活用についての研修を行った。	教務部	通年	○
	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	1学期末に1回目を行い、12月に2回目を行い、アンケート結果に係る対応策を関係部署で検討し、改善策を全教職員で共有した。	教務部	各学期末	○

VI 生徒募集の充実

1 戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、トワイライト説明会等を軸として広報活動を実施する。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、来校型のOSは中学校2回(公開模試除く)、高校1回のみとなった。高校は1回しかないOSが入試説明会あり、来校者のアンケートでは授業やクラブ活動などを体験したかったとの感想が多くあった。 中学は昨年度と比べて申込者を増加させることができたが、高校は減少した。 地域別相談会、夜のプチ説明会は予定通り開催をすることができた。 結果として入学者数は中学校60人高校300人を確保することができた。次年度に向けて引き続き内容の改善を図る。	企画広報部	5月～11月	△
	②ウェブ(ホーム)ページをこれまで以上に充実させる。	特に高校ブログの更新率が低いことが課題であり、意識して取り組んだ。昨年度と比べると若干更新率を上げることができたが、目標であった100%を達成することはできなかった。更新頻度を上げること、教育内容やOSの情報などを的確に発信できるよう今後も継続して取り組んでいく。 その他の学校情報等は整理、改修を行い、充実させることができた。	企画広報部	通年	△
	③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、訪問の代わりに郵送となることも多く、計画通りにできなかった。また、目標としていた各訪問時期までに資料作成、説明を行い、全教員に周知を図ることも実施できなかった。訪問先の厳選については、次年度に向けて、これから今年度のまとめと分析を行っていく。	企画広報部	5月～11月	△

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成度
VII 学校組織力の強化					
1 組織体制の充実	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定し、校務運営の円滑化を図る。また、その振り返りを全教員で共有する。 ②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成する。 ③「協創の教育2021」及びスクールポリシーを策定し、学校内外に発信する。 ④教職員研修及び中高一貫教育の充実を図るため、これらを主担する主任を置く。	中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定した。それを元に各分掌の長が人事評価システムに基づく計画目標を立て、ヒアリングを行った。	各部	通年	○
		各部より中間進捗の提出を受け、教科別等の事業計画の作成作業を行ったが年度内には終了せず、次年度当初になった。	管理職、教務部	通年	△
		「協創の教育2021」は4月に策定し、スクールポリシーの作成作業を行った。	管理職、教務部	4月	△
		研修主任を置き、月1回の全体研修を実りあるものにした。また県立広島大学教授による授業観察を行い、それに基づく授業改善を行った。公開研究会の計画及び準備をすすめ11月に実施した。	教務部	通年	○
2 人事評価の実施	①適正な評価に基いて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として2021度から人事評価制度を導入する。4月から9月までは準備期間とし、10月から試行として運用開始する。	4月～9月に計10回の「協創力向上プロジェクト」を行い、適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を策定した。	管理職	通年	○
VIII 事務室の機能強化					
1 経営面の機能強化	①事務室における企画面の機能強化を図り、校長の学校経営を支援するため、事務室組織の見直しを行う。	今年度より総務課を総務企画課とし、事業計画に関する事及び学校経営に関する企画・立案・調査を行った。生徒募集活動等に関しては、これまでの内外のデータ及び昨今の受験生の動向に注視し、企画広報部と連携し広報活動の見直しを図り、2022年度入学者増につながった。	事務室	通年	○
2 財務面の機能強化	①財務諸表等により財政及び経営状況を的確に把握し、収支バランスの改善を図るとともに、施設等・設備の適切な管理を行う観点から、施設・設備中長期保全計画を策定する。	財務諸表に基づいて分析を行い、中期事業計画における目標値を設定した。施設・設備中長期保全計画については、施工業者の調査及び基礎資料の検討を行い、策定した。	事務室	通年	○
IX その他					
1 学校創立80周年行事の準備	①本学年学校創立80周年を迎えるにあたり、記念行事の立案・準備をする。	事前学習「KIBO DISCOVER PROJECT」実施。講演者に宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究(JAXA)「はやぶさ2」のプロジェクトマネージャーの津田雄一教授をお招きし、オンラインによる記念講演も含め記念式典を実施した。	庶務部	4月～10月	○